

神奈川県座間市と相模原市の方言における、 「結果状態」を表す補助動詞「おく」

野島 本泰

nojima.motoyasu@gmail.com

1 はじめに

本稿¹の目的は、「神奈川県座間市と相模原市の方言²では、補助動詞³「おく」が動詞のテ形に接続して、行為の終了したあとの「結果状態」が存在していることを表すのにも用いられうる」ということを示すことである。例えば、補助動詞「おく」は、動詞「植える」のテ形に接続して「植えとく」という形を作り、「植えるという行為が終わって、その結果である「植えたものが植わっている」という状態が存在していること」を表しうる。本論文では、記述言語学の方法を用いて、話者(70代女性,相模原市上溝番田出身,座間市座間在住)の実際の発話から採集した用例を主に観察する。またそのあと,その他の話者⁴の内省とともに分析を加える。最後に,この補助動詞のもつ一般言語学上の意義について考察する。

本論文では座間市および相模原市で用いられる補助動詞「おく」のうち,動詞が表す行為が終了したあとの「結果状態」の意味を表すものを「座間のテオク」とかりに呼ぶことにする。一方,いわゆる共通語で用いられる補助動詞「おく」を「共通語のテオク」と呼ぶことにし,両者を対照させながら,その違いを明らかにしていく。

¹ 本稿の内容は,2010年10月に愛知大学でおこなわれた第91回日本方言研究会における筆者の口頭発表「神奈川県座間市と相模原市の方言における,「結果残存」を表す補助動詞「おく」」に基づいている。本稿の執筆にあたっては,多くの方々にご助言をいただいた。特に,以下の方々にご多大なご指導を賜った:稲垣和也氏,江畑冬生氏,加藤昌彦氏,木本幸憲氏,金水敏氏,児倉徳和氏,佐々木冠氏,佐藤亮一氏,田中智子氏,千田俊太郎氏,仲尾周一郎氏,日野資純氏,山田敏弘氏。これらの方々や,また,日本方言研究会における口頭発表の質疑応答の際,さまざまな観点からご助言をくださった方々,また,共通語の補助動詞「おく(...しておく)」の意味・用法の調査に協力してくださった方々にも,ここに深く謝意を述べたい。

² 日野資純(1952),(1984)で示されている方言区画によれば,座間市および相模原市で話されている方言は,神奈川県南部方言のうちの相模川東部方言のうちの高座・戸塚方言(高座郡と横浜市戸塚区西部)に属する。本稿は,現在の座間市および相模原市で話されている方言の記述に基づいている。本論文で用いるデータは,筆者(41歳,座間市座間出身)および筆者の母(77歳,相模原市上溝番田出身)の作例および内省と,筆者が自分の家庭における日常会話から採集した実例である。筆者の母の出身地である相模原市上溝番田は,座間市座間から8kmほどのところにあり,日野資純(1952)の方言区画では座間市と同じ高座・戸塚方言に属する。筆者の母は26歳のときに座間市座間出身の筆者の父のところに嫁いで以来,外住経歴はない。

³ 補助動詞という用語は,Martin(1975:510)の用語 auxiliary verb を訳したものである。

⁴ 座間市在住の話者5名(60代から90代の男女),および,相模原市上溝番田出身・在住の話者2名(50代および70代の男女)に協力をお願いした。また,座間市出身の話者5名(40代男性2名,40代女性3名)にも聞き取り調査をおこなった。

2 「共通語のテオク」

「共通語のテオク」の形式については、Martin (1975: 510) が auxiliary verb の一つと位置づけている。また、益岡・田窪 (1992: 16-18) が、テ形複合動詞の一つとしている。益岡・田窪 (1992) は、「ある動詞（前項）に別の動詞（後項）を付けて複合的な動詞を作ることができる。これを「複合動詞」と呼ぶ」とし、後項に「持ってくる」のようにテ形が現れるものを「テ形複合動詞」と呼んでいる。

「共通語のテオク」の表す意味については、大場 (2004: 1) が次のように記述している：行為によって生じる事態を見通した上で、その行為を行うことを表す⁵。そして、次の具体例を挙げて、その意味を説明している。

(1) 雛人形は、来年の3月までしまっておきましょう。(大場 2004: 1)

(2) 迎えに来てもらうために、飛行機の時間を知らせておいた。(大場 2004: 1)

例 (1) の意味を大場は、「「しまう」という行為によって生じる事態（一旦しまえば、誰が出さない限りしまわれた状態が保持されるということ）を見通しながら、「しまう」という行為をすることを表す」と述べている（大場 2004: 1）。また、例 (2) の意味を大場は、「飛行機の時間を知らせる」という行為を行うと「先方に当該の情報が伝わった状態になる」のだということを見通しながらその行為を行ったことを表すと述べている（大場 2004: 1）。

大場 (2004) の記述は、補助動詞「おく」の意味を1つにまとめる立場である。これに対し、Martin (1975: 529-533) や高橋 (2005) や日本語記述文法研究会（編）(2007) のように、補助動詞「おく」に複数の意味ないしは用法を認定する立場もある。

Martin (1975: 529-533) では、補助動詞「おく」に少なくとも4つの異なる意味を認定している：(i) 'does it and puts it aside; does it so the result is on hand; gets it done'; (ii) 'does it and leaves it that way'; with negative gerund 'leaves things as they are without doing it'; (iii) 'does it and lets it go at that (for the time being), does it for now (as makeshift or temporary arrangement), lets it go at doing; does once anyhow; does it once for all; goes ahead/on and does it'; (iv) 'does it in advance (so that it will be ready), does it now (so it will be out of the way), does it first (so that other things can happen later); does it in preparation or anticipation; prepares, anticipates, readies (by doing); gets it done (now/first - so one is free for other things), gets'. それぞれの意味を表す例文は原典を参照されたい。

高橋 (2005) では、「しておく」をもくろみ動詞（なにかのためにおこなう動作をあらわす動詞）とし（103頁）、5つの意味を並べて記している（104-105頁）：(i) 対象を変化させて、

⁵ 益岡・田窪 (1992:17-18) は、「共通語のテオク」の意味を、「ある目的のために準備としてある動作を行うことを表す」こととし、「友達が遊びに来るので、ビールを冷やしておいた。」という例文を挙げている。

その結果の状態を持続させることをあらわす。(ii) 対象にはたらきかけないで、そのままの状態を持続させることをあらわす。(iii) つぎにおこることがらのための準備的な動作をあらわす。(iv) 積極的に体験することをあらわす。(v) ことさらにする動作、しかたなくする動作をあらわす。それぞれの意味を表す例文は原典を参照されたい。

日本語記述文法研究会(編)(2007)では、補助動詞「おく」に2つの「用法」を認定している。それによれば、「共通語のテオク」には、「行為の結果の状態を一定期間維持することを表す用法」と、「何かに備えて事前に処置することを表す用法」の2つがある。前者の例としては「パーティーのあいだ、食卓に花を飾っておいた。」があり、後者の例としては「来客があるので、食器を買いそろえておいた。」がある(日本語記述文法研究会(編)2007: 52)。

3 観察

本節では「座間のテオク」を含む用例を、共通語訳とともに、以下に挙げていく。

(3) 「智子さん、洗濯物、二階、持ってっとく?」

共通語訳:「智子さん、洗濯物(を)二階へ持って行ってある?」

(意味は、「洗濯物を二階へ持っていく」という行為が終わって、「洗濯物が二階にある」という結果状態が存在していることを表す。)

例文(3)は「事態を見通して「持って行く」という行為をする」という意味も表す。したがって、例文(3)は両義的である。相模原市上溝番田出身・在住の70歳代の話者は、聞き取り調査の際、例文(3)を筆者が言っても、それが「智子さん、洗濯物(を)二階へ持って行ってある?」という意味を持ちうることを理解するのに、だいぶ時間がかかった。

(4) (何年か前にとったビデオを皆で見ていた。そのとき、幼い孫が笹の葉を手に持って遊んでいる映像を見た母が)

「この笹の葉、あたし、とっとくで。とってあるで。」

共通語訳:「この笹の葉(は)、私(は)(今でもまだ)とっておくよ。とってあるよ。」

例文(4)では、「とっとくで」で「座間のテオク」が現れた後に、すぐにそれを「とってあるで」と言い換えている。このことは、座間市と相模原市の方言では補助動詞「(て)おく」と「(て)ある」が意味的にきわめて近いことを示唆している。

(5) 「小林さん家は、畑にいっぱい花を植えとくよ。」

共通語訳:「小林さんの家は、畑にいっぱい花が植えてあるよ」

意味は、「植えるという行為が終わって、その結果状態である「植えたものが植わっている」という状態」が存在していることを表す。

- (6) 「お前，アルバム，どこへしまっとくのよ？」
共通語訳：「お前（は），アルバム（を）どこへしまっているの？」
意味は、「しまうという行為が終わって，その結果状態である「しまったものがどこかにしまっている」という状態」が存在していることを表す。
- (7) （ハイチで大地震が起きた。募金をしたという息子に）
「ユニーなんかでもね，箱，おいとくもん。」
共通語訳：「ユニー（近所にあるスーパーの名前）なんかでもね，箱（を）置いてあるもん。」
意味は、「置くという行為が終わって，その結果状態である「募金箱が置いてあるという状態」が存在していること」を表す。
- (8) （孫が「ぺんぎん組さんのときのお帳面どこ？」というのに対して母が）
「ママ，どっかへしまっとくんでしょよ。」
共通語訳：「ママ（は），帳面をどこかへ（大事に）保管しているんでしょよ。」
意味は、「しまうという行為が終わって，「きちんと保管してある」という結果状態が存在していること」を表す。
- (9) （息子が Y さんにアンケート調査をお願いした。息子は菓子折りでも持って Y さんにお礼に行くといっている。それに対して，母は）
「だってお母さんがちゃんとお礼しとくよ。」
共通語訳：「だってお母さんが（すでに）ちゃんとお礼してある（＝お礼を渡してある）よ。」
意味は、「お礼（を）するという行為が終わって，その結果状態である「お礼が渡してあるという状態」が存在していること」を表す。
- (10) （粒状のチューインガムがボトルに入っている製品がある。その製品には，かんだ後のガムを包んで捨てる時に使う捨て紙が入っている。息子はその捨て紙をゴミとして捨ててしまうのだが，母はものを大事にするので，捨てることができず）
「お母さん，そこへいっぱい拾っとくんだよ。」
共通語訳：「お母さん（は），いっぱい拾ってそこへ（＝その引き出しに）しまっているんだよ。」
意味は，拾うという行為が終わって，「拾ったものがしまっている」という結果状態が存在していることを表す。
- (11) 「おばさんがマイタケくれとくからさ(悪くならないうちに，食べちまーべーか。)」
共通語訳：「おばさんがマイタケくれたからさ（悪くならないうちに，食べてしまおうか）」
意味は，くれるという行為が終わって，「舞茸がこちらの手元にあるという結果状態」が存在していることを表す。

例文 (11) は聞き取り調査では、大多数の調査協力者の判断は、「マイタケくれとく」は
いわない。「マイタケくれた」という、というものだった。実際の会話で用いられた「くれ
とく」が聞き取り調査で許容度が低いのがなぜかは、わかっていない⁶。

- (12) (「最近,サバの缶詰を使ってサバカレーをよく食べる」という息子に対して,母が)
「あたしもこの頃その缶詰は買っとくよ。」
共通語訳:「私もこの頃,その(サバの)缶詰は買っているよ(買うことにしているよ)。」
意味は、「買うという行為が終わって、「缶詰が買っておいてある」という結果状態
が存在していること」を表す。

筆者がおこなった簡単な聞き取り調査では、共通語話者の中にも例文 (12) はそれほど違
和感のある表現ではないと判定する話者もいる。けれども、その一方で、「缶詰は買ってる
よ」が共通語では普通だとする共通語話者もいる。このように例文 (12) は「座間のテオク」
と「共通語のテオク」の境界例だと言えるかもしれない⁷。また、座間市出身・在住の 40 歳
代の話者で、「座間のテオク」のほとんどの例を不自然だと感じる話者でも、例文 (12) だけ
は許容する話者がいる。以上のことは、例文 (12) には「この頃」という表現があるため、
文全体で「買う」という行為が習慣的に行われていることが表されているからかもしれない。
この点は今後の精査を待ちたい。

- (13) (恐竜図鑑が探しても見つからないと困っている孫に)
「自分が悪いんでしょ? どっかしくんだから。」
共通語訳:「自分が悪いんでしょ? どこか(分からないところ)に置いたんだから」
意味は、「どこかに置くという行為が終わって、「図鑑がどこかに放置してある」と
いう結果状態が存在していること」を表す。

⁶ 筆者が複数名の共通語話者におこなった調査では、共通語で「くれてある」の許容度はきわめて
低い。奥津 (1979: 347-369) にあるように、共通語の「くれる」は自分か身内が受け手で、必然的
に、行為者はそれ以外になる。江畑冬生氏の内省では、「...してある」は、行為者が 1 人称でない
と座りが悪い (疑問文では行為者は 2 人称も可) ようだという。共通語で「くれてある」の許容
度が低くなるのは、その 2 つの人称制限がかちあうからのように思われる (江畑冬生氏, 私信)。
⁷ 第 91 回日本方言研究会における筆者の口頭発表の際、山田敏弘氏から「本来、非過去の場合、動
作開始以前のパースペクティブをもつ補助動詞「おく」が、動作終了以後の結果状態を非過去形
で表すようになった、という文法化のプロセスを仮定した場合、例文 (12) のような習慣的動作と
しての用法が間に入ると、説明がスムーズにいくように思う」という趣旨のコメントをいただいた。
筆者もそのような経過を経ての意味の拡張があったのではないかと考えており、その意味で
例文 (12) および例文 (18) は貴重である。

- (14) (孫が友達にあてて書いた手紙を見て)
「これ誰が書いたのよ？ すごいうまい字書いとく。」
共通語訳：「これは誰が書いたのよ？ すごくうまい字が書いてある。」
意味は、「書くという行為が終わって、「上手な字が書いてある」という結果状態が存在していること」を表す。
- (15) (孫が自分もお茶を飲む、というのに対して)
「啓ちゃんのお茶はここへ注いどくよ。」
共通語訳：「啓ちゃんのお茶は、ここに注いであるよ。」
意味は、「注ぐという行為が終わって、「注いである」という結果状態が存在していること」を表す。
- (16) (息子が「パパ、この紙、お絵書きしていい？」というのに対して)
「その紙、ママととくんじゃないかなあ...。」
共通語訳：「その紙(は)、ママがとといたんじゃないかなあ...。」
意味は、「とっておくという行為が終わって、「とっておいてある」という結果状態が存在していること」を表す⁸。
- (17) 「(民生委員の人が、あたしに)柿もくれとくんだって。」
共通語訳：「(民生委員の人が、私に)柿もくれたんだって。」
意味は、「くれるという行為が終わって、「もらった柿がある」という結果状態が存在していること(民生委員の人が私に柿をくれて、もらった柿が座間の家にあること)」を表す。
- (18) 「(孫娘ときたら)また、ここへ布団もってきとく！」
共通語訳：「また、ここへ布団をもってきてる！」
意味は、「持ってくるという行為が終わって、「持ってきてある」という結果状態が存在していること」を表す。

筆者の内省では、例文(18)のような習慣的な行為であれば、共通語でも「ておく」を使いそうな気がする。しかし、千葉県柏市出身の30代男性は「僕は使わない気がします」「また持ってきてちょう」「また持ってきてる」「また持ってきてる」のように言うと思います」と答えている。また、秋田県湯沢市出身の40代女性も「もってきとく」は使わないと答えている。

⁸ 40歳代の座間市出身のある女性話者は、他の大部分の「座間のテオク」は許容しなかったが、この「ママととくんじゃないかなあ...。」については自然だと判断した。

- (19) 「あたしが仲人，仮でも何でも，やっつくじゃん？」
共通語訳：「私が仲人を，仮にでもなんでも，やっているじゃない？」
意味は，「仲人を引き受ける」という行為が終わって，「仲人である，仲人をしてい
る」という結果状態が存在していることを表す。
- (20) (私も洋裁ができるが，義理の妹であるヒサちゃんの妹も手先が器用で，)
「(その妹は)とっても素敵なバッグを作って，ヒサちゃんにくれとくよ。」
共通語訳：「(その妹は)とっても素敵なバッグを作って，ヒサちゃんにあげたよ。」
意味は，「バッグをあげる」という行為が終わって，「バッグがヒサちゃんのものに
なっている」という結果状態が存在していることを表す。
- (21) (封筒の入っているビニール袋に，洗濯バサミでシールがはさんであるのを見て)
「なんでこんなところ，はさんどくんだろ？」
共通語訳：「なんでこんなところに，はさんであるんだろう？」
意味は，「はさむ」という行為が終わって，「シールが封筒のビニール袋にはさんで
ある」という結果状態が存在していることを表す。

次の例文 (22) は，筆者の妻（千葉市出身，30代女性）の発話である。したがって，厳密には本稿における記述の対象からは排除すべきだが，これもまっとうな座間市・相模原市方言として成立している。もしかしたら，座間市で妻が母と同居していたときに，習得したのかもしれない。

- (22) (妻が，居間のあちこち本が山積みになっている惨状に憤って)
「(本を)そこに山積みにしとくから，腹がたつんじゃんよー。」
共通語訳：「(本を)そこに山積みをしているから，腹がたつんじゃないよ。」
意味は，本を山積みにするという行為が終わって，「本が山積みになっている」と
いう結果状態が存在していることを表す。

4 記述

「座間のテオク」の音韻面，形態・統語面，意味面を記述する。

4.1 音韻

4.1.1 母音の融合

形は「(シ)トク」が一般的である。「(シ)テオク」は稀である。「(シ)トク」と「(シ)テオク」は完全に交換可能である。交換しても，意味が異なることはない。

4.1.2 ピッチの違い

ピッチの違いで、2種類の「テオク」が区別されうる。

- (23) 「しとくのは」 [低高高低低] (=「共通語のテオク」)(作例)
- (24) 「しとくのは」 [低高高高低] (=「座間のテオク」)(作例)
- (25) 「まだ外に置いとくよ。」[高低低低低低高高低](=「共通語のテオク」)(作例)
「(基本的には)話し手が、まだ外に置いておくよ」という意味。
- (26) 「まだ外に置いとくよ。」[高低低低低低低低降⁹](=「座間のテオク」)(作例)
「話し手でも聞き手でもない第三者が(あきれたことに)まだ外に置いてあるよ」という意味。

4.2 形態・統語

4.2.1 どのような動詞に接続するか

本節では、「座間のテオク」が、どのような動詞につくかについて述べる。

共通語では、「魚が死んでいる。」「車が止まっている。」は結果状態を表すといわれる。しかし、「座間のテオク」は「死ぬ」「止まる」といった、いわゆる自動詞にはつかない。「座間のテオク」がつきうるのは、金田一(1976)の「継続動詞」のうち、工藤(1995, 2004)が「主体動作客体変化動詞」という名称で呼んだグループの動詞である(工藤 1995: 69-80)。この結果として、「座間のテオク」の主体は一般に人である。

しかし、それ以外の動詞、たとえば主体動作動詞である「押す」には絶対につかないのかというと、そうでもない。例えば「背中を押しとく」のようには言えないが、「ハンコを押しとく」のようには言えるのである。同様に、「*杖を握っとく」とは言えないけれども、「おにぎりを握っとく」というのは可能である(ここで、前者の「握る」はある種の接触を表す動詞であるのに対し、後者の「握る」は状態変化動詞である)。このように見てくると、「座間のテオク」の形成には動詞句レベルのアスペクトも関係がありそうである¹⁰。

4.2.2 格枠組み

次に問題になるのが、「座間のテオク」を用いた節の格枠組みである。自然発話では、行為者と対象のどちらかはハダカ格(ゼロ格)で現れるのが一般的だ。そこで、格枠組みを調べるために、ここでは作例を用いる。例文(27)は、「(丸を)くれる(=つける)」という行為がすでに終了していて、その結果状態である「丸がついている状態」が存在していること

⁹ 降は[高-低]という下降を表す。

¹⁰ この観察は、佐々木冠氏に負う。

を述べている。ここで注意すべきは、共通語訳の「(丸を)つけてある」は筆者の内省では行為者と対象の2項はとれないのが普通だけれども、座間市および相模原市の方言では行為者を「が」格で示し、対象を「を」格で示すのが普通だという点である。

- (27) 「あたしが丸をくれとくから、すぐわかるよ。」(作例)
共通語訳「私が丸をつけたから、すぐわかるよ。」

このように、「座間のテオク」は、共通語の「テアル」とは異なり、他動詞を1項動詞化し格枠組みを変える働きをもたない

4.2.3 行為者の人称

「共通語のテオク」を含む節の行為者の人称は、筆者の内省では、典型的には1人称で、また、疑問節などでは2人称もよく現れるが、3人称行為者は極めて稀であろう。それは、「共通語のテオク」が表す意味、つまり、「行為によって生じる事態を見通した上で、その行為を行うことを表す」(大場 2004: 1) という意味の反映として説明できるに違いない(つまり、「事態を見通して行為を行う」ことができるのは、典型的には話し手の1人称であることから説明できるに違いない)¹¹。

これに対し、「座間のテオク」を含む動詞を述語とする節の行為者の人称には制限はない(1人称行為者の例は(4), (9), (10), (12), (15), (19)を、2人称行為者の例は(3), (6), (13), (18), (22)を、3人称行為者の例は(5), (7), (8), (11), (14), (16), (17), (20), (21)を参照のこと)。

4.2.4 「座間のテオク」と副詞「もう」は共起するのか

第91回日本方言研究会における筆者の口頭発表のあとの質疑応答の際、「座間のテオク」が副詞「もう」と共起するかどうかの問題となった。これを調べるため、次の作例を用いて、聞き取り調査をおこなった。

- (28) (「麦茶を沸かしておいて」と頼む息子に対して)
「あたし、もう沸かしとくよ。」
共通語訳:「私、もう沸かしたよ。」
意味は、麦茶を沸かすという行為が終わって、「(麦茶がすでに)沸いている」という結果状態が存在していることを表す。

座間市座間出身・在住の88歳女性話者2名と、69歳男性話者1名はこの「もう沸かしとくよ」は、自然だと判断した。「もう沸かした(または、もう沸かしてある)」という意味で、「あたし、もう沸かしたよ」と言い換えても、意味はほぼ同じだと判断している。筆者の母

¹¹ 菊地(2009)には、これと同じ趣旨のことが述べてある。

(相模原市上溝出身，座間市座間在住，77歳)は判断が揺れている。ところが，相模原市上溝出身・在住の51歳男性話者1名は，「もう沸かしとくよ」には違和感を感じるという。筆者はすでに述べたように座間市座間出身，42歳だが，「もう沸かしとくよ」に比べれば「もう沸かしたよ」「もう沸かしてあるよ」の方が「座りが良い」と感じる¹²。

副詞「もう」との共起については，今後のさらなる精査を要する。

4.3 意味

「座間のテオク」は，これまで観察してきたように，結果状態を表す。ここで「結果状態」とは，Bybee et al. (1994) による resultative の定義，および，工藤 (2004) によるパーフェクトの定義に近い。以下に挙げる：

Bybee et al. (1994: 63–68) :

Resultatives signal that a state exists as a result of a past action.

工藤 (2004: 28) :

パーフェクト：個別具体的な運動が自らの時間的限界に至った後にある姿・捉え方。結果状態=状態パーフェクト と，痕跡や効力の残存=動作パーフェクト という2つのタイプがある。また 結果 には，主体に変化結果が生じている 主体結果 と，動作の客体に結果がもたらされる 客体結果 がある。

「座間のテオク」が表すのは，工藤 (2004) の用語法に従えば，「客体結果」ということになる。

5 一般言語学的な意味

5.1 文法化理論にとっての意味

本稿で見た，座間市および相模原市の方言の補助動詞「おく」のもつ，結果状態を表す用法は，沖 (1996) や山部 (2005a, 2005b, 2007) の扱っている西日本の補助動詞「おく」の用法を想起させるかもしれない。沖 (1996) は，「授業が終わるまで待っつけ」(34頁)，「まだ時間あるから映画でも見とこか」(35頁)などの例を挙げ，動詞が表す状態，行為を持続し続ける意味を表すと述べている。京阪方言の補助動詞「おく」の用法は，「座間のテオク」を考える際，参考にすべきかもしれないけれども，違いもやはり大きいといえる。違いのうち最も大きなものは，「座間のテオク」がル形・言い切りで結果状態を表せるのに対し，京阪方言の補助動詞「おく」は，沖 (1996) の通り、持続の意味が中心であり、結果状態をあらわさないという点である。

¹² 同様に「(「瀬戸さんの住所を調べてよ」という依頼に対して)もう調べとくよ。」は，筆者や，筆者の母は「座りが悪い」と感じる。それに対し，「本泰は，同級生の住所をいっぱい調べとくよ。」は「調べてあるよ」という意味のことばとして自然であると筆者は感じる。また，筆者の母の内省でも同様だという。

むしろ「座間のテオク」と近いと考えられるのは、沖縄諸方言で日本語の動詞「おく」に対応する動詞が補助動詞化し、「行為の結果状態」を表す方向に文法化している現象である（宮良 1995, 伊豆山 2005, 下地賀代子 2006, Shimoji 2008: 523–528）。また、この方向の文法化は、ビルマ語（Okell 1969: 309, Heine and Kuteva 2002: 248）や、ビルマ北部カチン州やシャン州、中国雲南省、東北インドなどで話されているジンポー語（倉部慶太氏、私信）、パプア・ニューギニアのシンブー州で話されているドム語（Tida 2006: 176–177）などでも報告されている。このように広く通言語的に見られる意味変化が、東日本の方言でも確認された点は注目に値する。

ところで、動詞「置く」は本動詞としては動態動詞 (dynamic verb) である。それに対し、動詞「ある」は本動詞としては状態動詞 (stative verb) である。共通語では、動詞「ある」が補助動詞化し、結果状態を表す補助動詞として用いられるのに対し、動詞「置く」は補助動詞化し「準備的行為」を表すと考えられている。本動詞としては状態動詞である「ある」が補助動詞化して結果状態を表すのは、理解しやすいが、本動詞としては動態動詞である「置く」が座間市および相模原市方言では補助動詞化して結果状態を表すというのは理解しがたい現象のように一見おもわれる。

ところが、ここで注目すべきは、動詞「ある」と「置く」は意味的には自動詞と他動詞の関係にあるという点である。Van Valin and LaPolta (1997: 127, 141) は、動詞 put の論理構造を [do' (x, Φ)] CAUSE [BECOME be-LOC' (y, z)] のように分析している(ここで x は effector, y は location, z は theme を表す)。この論理構造は、例えば、ブヌン語（台湾、オーストロネシア語族）で、「(人や物が) ...にいる, ある」を意味する動詞 'isian を使役化した動詞 *p-isain-un* が、他動詞「(人や物を) ...に置く」に相当するという事実にも反映している。高橋 (1976: 135) も、「すがた動詞としての「しておく」は、「してある」という状態をつくりだし保持するうごき-状態をあらわすのである」と述べている。

「ある」と「置く」は、このように、概念的には自他の関係で対応するわけだが、一方の自動詞「ある」が結果相の標識に発展するのが自然なら、もう一方の他動詞「置く」が結果相の標識に発展するのも自然だと言える¹³。その際、「ある」も「置く」もともに結果状態を表す補助動詞に文法化するとしても、「ある」は1項動詞化を引き起こし(例: 共通語の「(ドアが)開けてある」), 「置く」の方は(もとの本動詞が他動詞であるから)2項動詞のまま結果状態を表すというのが合理的といえるだろう(例: 座間市・相模原市方言「お父さんが(ドアを)開けとく」)。「座間のテオク」は、このような体系性を得ようとする力が働いて成立したものだと考えられる。

5.2 日本語諸方言の対照研究にとっての意味

共通語は、結果状態を表現する体系が、ある点で「いびつ」である。これはどういうことかということ、対象の結果状態を述べつつ、行為者と対象の両方を表す表現、例えば、「お父

¹³ この観察は、千田俊太郎氏に負う。

さんが窓を開けてあるよ」「孝典が大根を煮てあるよ」は、いずれも舌足らずな感じがするということである(まったく非文だというわけでもないようであるが¹⁴)。しかし、だからといってテイルを替わりに用いて、「お父さんが窓を開けているよ」「孝典が大根を煮ているよ」として結果状態が表せるかという、これも無理ではないが、やはり現在進行の読みが先行してしまう。このように、不安定な部分が多いのである。

これに対して、座間市および相模原市の方言は、単純で整然とした体系をしている。

「窓が開けてあるよ」(結果状態, 補助動詞「ある」, 1項述語)

「大根が煮てあるよ」(結果状態, 補助動詞「ある」, 1項述語)

「お父さんが窓を開けとくよ」(結果状態, 補助動詞「おく」, 2項述語)

「孝典が大根を煮とくよ」(結果状態, 補助動詞「おく」, 2項述語)

この体系性こそ、「座間のテオク」の存在理由と言えるのではないだろうか。

6 おわりに

本稿では、「神奈川県座間市および相模原市の方言では、補助動詞「おく」が動詞のテ形に接続して、「結果状態」の意味で用いられうる」ことを観察した。また、記述言語学の方法を用いて、実際の発話から採集した用例を観察し、音韻、形態・統語、意味を記述した。さらに、一般言語学的な意味を考察し、文法化理論にとっての意味、および、日本語諸方言の対照研究にとっての意味を述べた。

今後、本論文で考察の主な対象とした70歳代よりも若い世代でどの程度「座間のテオク」が使用されているのかを調べたい。現時点で分かっているのは、筆者と同じ42歳の話者では、著しく許容度が低いことである。座間市座間出身・在住の69歳の男性話者が「座間のテオク」を違和感のない、自然なことばだと見ているのを考えると、戦後20年の間に「座間のテオク」は使われなくなったことが推測される。

参考文献

Bybee, Joan, Revere Perkins and William Pagliuca. (1994) *The Evolution of Grammar: Tense, Aspect, and Modality in the Languages of the World*. Chicago and London: The University of Chicago Press.

Heine, Bernd and Tania Kuteva (2002) *World Lexicon of Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.

¹⁴ 益岡 (1987: 219–235), 益岡 (2000: 101–105)は、共通語の「Vてある文」のうち、行為者が「ガ」格で標示されるものを、「能動型」のテアル表現のように呼び考察している。また、方言でも、例えばウチナーヤマトゥグチでは、「先生ガ窓開ケテアツタ」で「結果」(工藤 2007: 37)を表すように、方言によってはテアルを用いて結果状態を述べつつ行為者と対象の両方に明示的に言及する形式がまったくないわけではない。

- 日野資純 (1952) 「相模方言の素描 (その方言区画)」『国語学』9, 48–59頁.
- 日野資純 (1961) 「神奈川県の方言」神奈川県立図書館シリーズ 6 『神奈川県の歴史』神奈川県立図書館 (編), 横浜: 神奈川県立図書館, 131–163頁.
- 日野資純 (1984) 「神奈川県の方言」飯豊 毅一, 日野 資純, 佐藤 亮一 (編) 『関東地方の方言』, 273–302頁, 講座方言学 5, 東京: 国書刊行会
- 伊豆山敦子 (2005) 「エヴィデンシャルティ (証拠様態) - 琉球・先島方言の場合 - 」『日本語学』第24巻14号, 56–66頁.
- 菊地康人 (2009) 「「ておく」の分析」『東京大学日本語教育センター教育研究論集』第15号, 1–20頁.
- 金田一春彦 (1976) 「国語動詞の一分類」, 金田一春彦 (編) (1976) 『日本語動詞のアスペクト』東京: むぎ書房, 5–26頁.
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現』東京: ひつじ書房.
- 工藤真由美 (2004) 『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系—標準語研究を超えて—』東京: ひつじ書房.
- 工藤真由美 (2007) 「複数の日本語という視点から捉えるアスペクト」『月刊言語』第36巻9月号, 32–39頁.
- Martin, Samuel E. (1975) *A Reference Grammar of Japanese*. New York: Yale University Press.
- 益岡隆志 (1987) 『命題の文法 日本語文法序説』東京: くろしお出版.
- 益岡隆志 (2000) 『日本語文法の諸相』東京: くろしお出版.
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法 (改訂版)』東京: くろしお出版.
- 宮良信詳 (1995) 『南琉球八重山石垣方言の文法』東京: くろしお出版.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2007) 『現代日本語文法 3 第5部 アスペクト 第6部 テンス 第7部 肯否』東京: くろしお出版.
- 大場美穂子 (2004) 「補助動詞「おく」の使用制限についての覚書」『相模女子大学紀要 (人文・社会系)』第68巻A, 1–9頁.
- 大場美穂子 (2005) 「補助動詞「おく」についての一考察」『東京大学留学生センター教育研究論集』第14号, 19–33頁.
- Okell, John (1969) *A Reference Grammar of Colloquial Burmese*. London: Oxford University Press.
- 沖裕子 (1996) 「アスペクト形式「しかける・しておく」の意味の東西差 —気づかれにくい方言について—」平山輝男博士米寿記念会 (編) 『日本語研究諸領域の視点』上巻, 30–46頁, 明治書院.
- 奥津敬一郎 (1979) 『拾遺日本文法論』東京: ひつじ書房.
- 下地賀代子 (2006) 「琉球・多良間島方言のパーフェクトの形式」『日本語の研究』第2巻4号, 76–91頁.
- Shimoji, Michinori [下地理則] (2008) *A Grammar of Irabu, a Southern Ryukyuan Language*. PhD dissertation, The Australian National University.

- 高橋太郎 (1976) 「すがたともくろみ」金田一春彦 (編) 『日本語動詞のアスペクト』 東京：むぎ書房，117–153 頁.
- 高橋太郎 (2005) 『日本語の文法』 東京：ひつじ書房.
- Tida, Syuntaro [千田俊太郎] (2006) A Grammar of the Dom Language, a Papuan Language of Papua New Guinea. PhD dissertation, Kyoto University.
- Van Valin, Robert D., Jr. and Randy J. LaPolla (1997) *Syntax: Structure, Meaning and Function*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 山部順治 (2001) 「補助動詞「おく」の意味」『ノートルダム清心女子大学紀要：日本語・日本文学編』 25(1), 53–78.
- 山部順治 (2005a) 「補助動詞「おく」の諸用法の共時的つながりと通時的拡張経路 第1部—標準語的な用法—」『ノートルダム清心女子大学紀要：日本語・日本文学編』 29(1): 76–45.
- 山部順治 (2005b) 「補助動詞「おく」の諸用法の共時的つながりと通時的拡張経路 第2部—主語の状態が描写される—」『清心語文』 第7号，ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会，1–24 頁.
- 山部順治 (2007) 「補助動詞「おく」の諸用法の共時的つながりと通時的拡張経路 第3部(止)—非情物主語—」『ノートルダム清心女子大学紀要：日本語・日本文学編』 31(1), 15–42 頁.